



▲2月18日に開催されたマイプロジェクト発表会。12人11提案のうち、今回は3人のプロジェクトを紹介します



**強制人生夏休み  
プログラムを提供**



さくらい しずか  
櫻井 静香 さん (神奈川県)

今回ベンチャーチャレンジスクールで『鹿屋短期滞在型プログラムなっじゃすん』を企画しました。鹿屋を観光目的に訪れるのではなく、10～20日ほど滞在し農業に携わりながら「生きる」ことを見つめ直すプログラムです。2021年に初めて鹿屋を訪れましたが、それまで都会で生まれ育った私は、畑が広がる景色に衝撃を受けました。そして自分が食に関心がなかったこと、忙しい日常の中で四季を感じることもなく過ごしていたことに気付かされました。すぐに勤めていた会社を辞め、1年ほど住み込みで農業をしながら国内を回ってきました。そこで感じたのは、農業が楽しいということ、また、一方で社会人になると立ち止まって人生を考える時間がないことでした。プログラムを企画するにあたり、鹿屋の田園風景や錦江湾の海岸線の景色が浮かびました。農業をしながらのんびりと「生きる」ことを見つめ直すことができる場所は鹿屋だと思い、「なっじゃすん」が完成しました。



▲1か月鹿屋の農家に住み込みで農業体験中。1つひとつのピーマンが愛おしい

**「鹿屋に行ってみよう」を全国で紹介**



すずやま まさひろ  
杉山 正博 さん (愛知県)

私は普段、編集者・ライターとして「移住や旅行、住まい、グルメ」などをテーマに、雑誌や書籍、ウェブなどで企画から取材・執筆までを手掛けています。そんな経験を生かして、「鹿屋を愛する方たち」を取材し、鹿屋の魅力を冊子やウェブで発信する『かのやびとを訪ねて ～この土地らしい12の仕事と暮らし～』というプロジェクトを考えました。2月15～19日は鹿屋を訪れ、地域の皆さんのお話を伺う中で、鹿屋には日本一に輝いた黒毛和牛や黒豚、うなぎ、お茶などのおいしいものを生産する方をはじめ、鹿屋を盛り上げようと活動する多くの“かのやびと”がいっぱいいることを実感しました。そんな皆さんの活動を発信し、私のように「鹿屋を訪れてみたい!」と思う人たちを増やしていきたいという思いが更に強くなりました。取材の現場や原稿制作を体験してみたい方は、ぜひ気軽に声を掛けていただけたら嬉しいです。一緒に鹿屋の魅力を発信していきましょう!



▲鹿屋体育大学生ボランティアと一緒に、耕作放棄地を再生した畑で農業体験

**数的感覚を持った人材を育てる**



ことう れいな  
後藤 玲七 さん (茨城県)

私が鹿屋ベンチャーチャレンジスクールで考案したプロジェクトは『ローカルデータサイエンティストの育成』です。日々の生活（仕事）の中で数的感覚を持つことにより、今後の行動計画に生かしていくプロジェクトです。学習塾の数学講師をしながら机上の数学を日常の生活（仕事）にもっと活用できないだろうかと思っていました。見慣れた原風景の中に数的感覚を持つようになる、これが目指すところ。例えば鹿屋には茶畑がありますが、ぱっと見てその広さ・収穫量・生産額を感覚的に捉える訓練をするプログラムです。オンライン上の学習で数的感覚を養いながら鹿屋でのフィールドワークを行うことで、より実践的な力を伸ばすだけでなく、鹿屋への愛着醸成にもつながります。今回の滞在で、高限をはじめ鹿屋の自然や農業に従事する方の想い、6次産業へのチャレンジを通じた地域貢献の取り組みについて知り、大変感動しました。今後も、鹿屋を題材にしたこのプロジェクトの実現を目指していきたいです。



▲地元企業に6次産業化や地域貢献の取り組みをヒアリング

# 鹿屋ベンチャーチャレンジスクール マイプロジェクト!! 始動

都市部の住民を対象に、鹿屋のことを深く知り、自らが持つスキルを使ってプロジェクトを考案・実践する「鹿屋ベンチャーチャレンジスクール」事業が始まっています。参加者は28人で「自分資源」であるスキルと鹿屋の「地域資源」を融合して考案したマイプロジェクトを2月18日に発表。提案内容からは、外部から見た鹿屋や都市部の住民らしい発想が感じられ、鹿屋への愛情が伝わります。今回発表した12人の参加者は、今後も本市を訪れマイプロジェクトの実現に向け活動する予定です。一緒に鹿屋を盛り上げたい方、ぜひ、ご協力をお願いします。

**関 市地域活力推進課**  
09694-311147

